

「次世代光インキュベーション機構」の新設 ～研究から事業化へのスムーズな展開に向けた挑戦～

<報道概要>

徳島大学は、研究開発から事業化へのスムーズな展開を図るため、令和5年7月28日に「次世代光インキュベーション機構」を新設しました。

当該機構は、地方大学・地域産業創生交付金事業・徳島県「次世代“光”創出・応用による産業振興・若者雇用創出計画<展開枠>」の取組として設置され、研究成果の社会実装加速のため、本学の他、徳島県、徳島県立工業技術センター、とくしま産業振興機構、阿南工業高等専門学校等との協働の下、運営されます。

当該機構では、次世代光技術を事業化する際の技術ギャップや事業化ギャップを解消するため、県内外の企業に参加いただき、各種開発技術の事業化判断に繋がる事業目論見の検討、具体的には、製品仕様・差異化技術・品質保証・販売計画などを含むプロトタイプ(試作機)作成に取り組むとともに、これらを通じた新規技術習得に向けた人材育成を行います。

これにより、プロトタイプを用いた事業化判断が可能となり、企業において、新規技術分野進出のための、リスクや負担を軽減できます。また、当該機構及びポストLEDフォトンクス研究所を学生の研究教育及び指導の場として活用することで、学生が、学外の多様な人材と一緒に研究を行い、技術を社会実装に繋げるプロセスを実体験する中で、学生と企業とのマッチング効果も発揮することを期待しています。

これらの取組により、徳島県内における光産業の発展・活性化及び地域を担う若者の雇用創出への貢献を目指します。

次世代光インキュベーション機構の概要

- 県内企業とポストLEDフォトニクス研究所 (pLED) 間の **技術ギャップ** と **事業化ギャップ** を解消する機能を有する「次世代光インキュベーション機構」を新設した。
- 県内企業、工業技術センター、阿南高専の研究者・技術者に対して、**新規技術習得の場** を設け、技術力の向上を図る。
- **プロトタイプ開発** による機能検証、品質評価、市場開拓を通じて、仕様見直し、事業化の判断、県内企業への引継ぎを行う。



次世代光インキュベーション機構

① **ミッション** ・新規技術習得の場の提供(学内外人材育成)
 ・プロトタイプ開発

② **体制** ・産学官金トップで構成された運営会議による全県的支援
 ・執行責任者の強いリーダーシップによる事業化推進

③ 具体的な取組み

3-1: **人材育成** (技術人材育成グループ: 学内教員中心に組織化)

- ・新規技術習得講座の開設と卒業研究の受入れ【卒研型】
- ・研究テーマ(例: テラヘルツ・赤外)への参画【OJT型】

3-2: **プロトタイプ開発** (ファクトリー第1グループ: 企業出身者中心に組織化)

- ・テラヘルツ非破壊検査装置
- ・バイオチップ用機能デバイス 他

3-3: **創出済み技術成果の事業化** (ファクトリー第2グループ: テーマ毎に既存各組織から参加のタスクフォース型組織)

- ・光がん診断/異物検査/インフラ検査 他



お問い合わせ先

研究・産学連携部地域産業創生事業推進課

担当者 課長 井元 純

事業推進係長 佐藤 彰勇

電話番号 088-656-9020

メールアドレス chsangyo@tokushima-u.ac.jp